

Ⅲ 現在の福祉サービスや生活の中で困っていること

(7) 福祉サービスや生活の中で困っていることは？

子どもの年齢、障がいの範囲と程度、家庭状況によって困っている内容はさまざまである。全回答グループに共通して一番多いのが、日中活動に関する悩み。小学生は学童があるため、将来に対する不安の声としてあがっているのが多い。預け先や、活動の場として提供されているサービスの人数枠が足りないという声は全グループから多く上がっている。小学生では預け先を必要とは思っていないが、健常児との関わりには難しさを感じている声は複数。

療育や訓練に関する不安の声は小学生で他のグループより多いが、肢体に障がいのある子どもでは年齢と共にリハビリが大変になるとの声あり。

経済的な問題を訴える声はグループの別なくあがっている。

母親が生活のやりくりの中で非常にストレスを抱えている様子もうかがえる。

福祉サービスについては、医療ケアなどの不足を訴えるものもあれば、手帳がないと使えないといった、多様なニーズに現状が対応していない様子もうかがえる。(6)で取り上げた移動支援の使いにくさを訴える声はここでもあがっている。

支援学校中・高生では思春期にある子どもの難しさと保護者の健康問題から、緊急時に対応できるところが少ないという不安の声がある。また、レスパイトではサービスを利用しにくいという保護者の心境もうかがえる。以下、内容を分類し代表的な声を挙げる。

a. 日中活動について 42件

小学校では学童あるが中学以降が不安(多数)、支援学校にクラブ活動がなく夏休みの活動も少ない、重度の障がいで医ケアが必要なため預け先がほとんどない、ショートステイの定員が少なく予約とりにくい、バリアフリースイミングの定員少ない、他市の児童デイ利用しているが箕面にもほしい、本人理解のためにも同じ場所で同じスタッフに対応してもらう必要がある、施設・サービスは使わず放課後を友達と過ごしているが、うまく遊べず大変、など。

b. 母親の負担の大きさと生活の不安に関するもの 15件

特別な食事療法必要で母しか対応できない、他の親族に入院が出ると送迎など大変、自分が病気になっても助けてくれる人はない、他のきょうだいも思春期で大変なことある、手が足りず、療育・学習会・イベントへの参加も不自由する、母子家庭で自分が病気になったら送迎ができない、母親の就労など考えられない、母親が一人で障がいのある子やきょうだいの世話を抱えている、行政は「父親もいるのだから」という対応をするが父親が休みを取れるのは僅かである、リハビリで遠方に通う必要あるが体力的にきつくなってきた、きょうだい間の関係難しい、子どもの成長と共に力が強くなり将来が不安、子どもたちの

ことで手いっぱい長期休みは外出もままならない、など。

c. 情報に関すること 10件

事業所や実際に使えるサービスの情報が少なくわかりにくい、行政は市もっと情報を集めて公開してほしい、英語での資料がない、など。

d. 療育に関すること 9件

早期療育以降の訓練がない事への不満（機能は落ちていく）、療育の施設が少なく、あっても遠方だったり高額だったりする、言語療法の打ち切りが早い（低学年）、身近で受けられるソーシャルスキルトレーニングがない、など。

e. 経済的負担に関すること 7件

サービスを使いたいけど経済的負担が重く思うように使えない、医療費の補助がない、など。

f. いじめに関するもの 2件

障がい児に対するいじめには適切に対処してほしい、など。

g. その他の福祉サービス等に関すること 14件

ライフプラザの車いすレンタルに子ども用を用意してほしい、ショートステイやデイサービスが少なすぎる、入浴サービスの使いにくさ（回数制限が現実的ニーズに合っていない、時間帯に制限あり使いにくい）、ガイドヘルパーの使いにくさ（数が足りない、車が使えない、通学にも使えるようにしてほしい）、行政（社協）に相談しても希望するサービスはなかなか受けられない、レスパイトでの利用に遠慮ある、医療ケアできるサービスを増やしてほしい、片親だけでも元気だと家事援助の許可が出ない、オムツで大量のごみ袋必要なのでごみ袋支給してほしい、など。

h. その他 5件

療育手帳がないと利用できないものがあり困る、本人告知がまだで療育等の企画に参加をためらう、自閉症で同じことを繰り返し言うのがこまる、など。